

協同労働シンポジウム

地域のオンリーワンの活動を目指す

アグリ アシストとも

～伴・大塚の農業を楽しく継続させる応援団～



2022年9月3日

代表 西本 正憲
事務局長 上垣内 保之

1. 伴・大塚地区の特徴



「アグリアシストとも」の拠点・活動
地域は安佐南区の中央部に位置する
伴地区(高速4号線経由で広島市
中心部から車で約15分)です。

- ① 3つのIC（五日市IC、西風新都IC、沼田スマートIC）で囲まれたアストラムライン沿線（伴・奥畑・大塚）を中心に、**新興住宅団地と、古くから住んでる農業従事者が折り重なる地域**
- ② 人口約3.6万人、世帯数約16,000世帯。田んぼや畑、山林等で広島市近郊としては貴重な田園風景を残す
- ③ 地域活動が盛んで30町内会・3学区社会福祉協議会・1連合町内会が活動中
- ④ 『伴・大塚地区まちづくりのビジョンづくり』において、古くからの風景に新しい街並みが融合する住みよさを実践でき、自立的に発展するまちを目指す
- ⑤ 農業従事者は概ね500世帯。主に**兼業農家で先祖代々の田畑を継ぐ稲作を中心にした家族農業が中心（小さな農業）**
- ⑥ 近年、**休耕田・耕作放棄地**が著しく目立ち始める

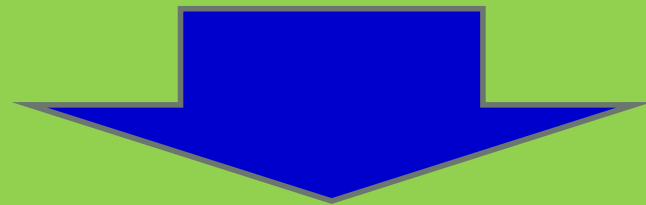
2. 伴・大塚地区の農業の現状

1. 地区内では市街化区域・市街化調整区域・自由区域
(白地)が混在しており、それぞれの区域で農を営んでいる。
 - ・市街化区域 ⇒宅地並み課税
 - ・市街化調整区域⇒農地並み課税（市街化抑制地域）
 - ・自由区域(白地・都市計画区域外)
2. 農業従事者の高齢化と核家族化に伴い、後継者がいない。
3. 農業従事者が直面している悩み
 - ①高齢化に伴う体力の問題
草刈り、害虫駆除、田畑の耕作ができない
 - ②農業環境の問題
 - ・農機具を修理するサービス業者が少ない
 - ・農作業を委託できる業者が少ない

3. 現状を放置すると



耕作放棄地(遊休地・休耕田)が著しく増え…



地域環境保全やまちの景観維持が困難になる
まちづくりにも支障をきたす

4. 伴・大塚地区の農業従事者のつばやき

- ① “先祖代々の農業を継続したいんじゃが、後継者がおらんし、後継者が決まらん” ⇒ 「不安」
- ② “遊休地にはしたくないけえ、農作業の委託先を探しよるんじゃが見つからん” ⇒ 「不安」
- ③ “いまは何とか農業をしよるが、体力的にあとどれぐらい続けられるんかわからん” ⇒ 「不安」
- ④ “市街化区域で農業をしよるが、税金が高くて農業を続けられるか心配じゃのう” ⇒ 「不安」



なのに危機感が薄い

農業従事者の不安解消のために、今、求められていること

①今の農業を継続していくための支援

②将来に亘って伴・大塚地区の農業を持続させるための支援

5. 「アグリアシスト とも」の立上げ

2018年9月、伴・大塚地区の農業持続を目的に地域への熱い想いを持った14名の出資者が集まり、JAの協力とプラットフォームの支援も頂いて、協同労働の仕組みを利用した任意団体「アグリアシストとも」を立ち上げる。



6. 「アグリアシスト とも」の3事業

同封しているアグリアシストとも
のチラシをご覧ください👉

1. 農業関連のお困りごと支援事業

- 体力面の支援：草刈り、除草、害虫駆除等
- 環境面の支援：水の管理（田の水漏れ対応）
農機具修理

2. 将来にわたって伴・大塚地区の農業が持続するための支援事業（農業持続支援事業）

- 伴・大塚地区の農業が地域に根付き発展させるための
伴独自の新しい農業モデル（伴モデル）の構築

3. 地域環境整備事業

- 学区社協（伴・伴東・大塚学区）、伴学区町内会連合会、
沼田公民館・大塚公民館と情報を共有しながら、地域の環境に
関する困りごと支援

草刈り・芝刈り・代掻き等活動中

～農業従事者等の困りごと支援～





旗印を背負って

～伴の農業を楽しく継続させる応援団～



中国新聞2019年3月11日朝刊掲載「おくはたホテル公園清掃」

地域の農業の課題解決に向け、昨年夏に広島市安佐南区伴・大塚地区の兼業農家たちで結成した「アグリ アシストとも」が、地域の田園風景を守る活動を本格的に始めた。働く人が自ら出資し、経営にも参加する「協同労働」を支援する市のモデル事業の一つ。田畑の保全や耕作放棄地の有効活用などに取り組む。(石井雄一)



公園のビオトープで土砂をかき出す「アグリ アシストとも」のメンバーたち

安佐南区 「田園風景守りたい」

農業の困り事 伴・大塚の兼業農家ら わしらが解決

安佐南区伴西の「おくはたホテル公園」で8日、メンバーたち11人が、川から水を引いたビオトープの土砂のかき出しに精を出した。地元町内会などでつくるグループ「ホテルの里おくはた」の依頼を受けて作業。土垣内保之さん(72)は「活動を重ねて景観をしっかりと守っていきたい」と汗を拭いた。

「アグリ アシストとも」のメンバーは14人で、全員が60歳以上。住宅地の周辺に田園風景が残る地区では近年、担い手の高齢化が進む。遊休地や耕作放棄地も増えており「何とかしたい」と立ち上がった。

今年1月には、地域課題の解決に高齢者の力を生かす狙いで市が支援する「協同労働」のモデル事業に採択された。地域住民たちからの依頼を受けて、田畑の草刈りや代かき、植木の剪定、作物の植え付けなどを有料で請け負う。遊休地を活用し、メンバーの指導で、興味のある人が共同で作物を育てる仕組みづくりも目指す。

西本正憲代表(70)は「地域住民に寄り添い、メンバーも楽しみながら活動したい」と意気込んでいる。

困りごとと支援の実績

●これまでの作業実績●

2019(令和元)年度	64件
2020(令和2)年度	96件
2021(令和3)年度	68件

228件



- 全地域への広報・口コミが行き届き、地域住民の選択肢が増えた
- リピーターが増え、作業への満足度が増している
- お困り事は氷山の一角、新しい困り事が次々出てくる
- JAが強力にバックアップしているため住民に安心感がある
- 地域貢献として行政発注の作業(西風館、沼田公民館)も受託している

7. 持続可能な農業を目指して

1. 農業従事者等の支援

①伴地区を5地域（伴中央・伴東・大塚西・伴西・伴北）に分けて地域見守り担当を置くことで、各地域の農業従事者の困りごと情報を素早くキャッチ！

※出資者全員（18名）で地域見守り担当を担う

②JA伴支店が調査する組合員の困りごと情報を共有させて頂くことで、JAで対応が難しい案件についてはアグリで対応する！（JAとの連携）

③地域包括支援センター、介護や福祉施設職員、民生委員、地元病院（日比野病院）と連携して（地域丸ごと連携）、患者様の困りごと（畑や庭の心配事）を聞き取る！

④困りごとの対応のみならず、困りごとの本質を把握して改善提案も行う（寄り添い型支援）

2. 生産者と消費者が連携した地域支援型農業の模索

農業体験農園＋農業者協同型CSA = **伴型CSA**

※CSA（Community Supported Agriculture）

生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組み



農業体験農園の仕組みも取り入れて、消費者と年間契約（一括前払い）の上、農作業・出荷作業等農場運営の協力を頂きながら、旬の収穫物を定期的に提供するモデル

※ 次年度からの試行開始を目指してJAと準備中

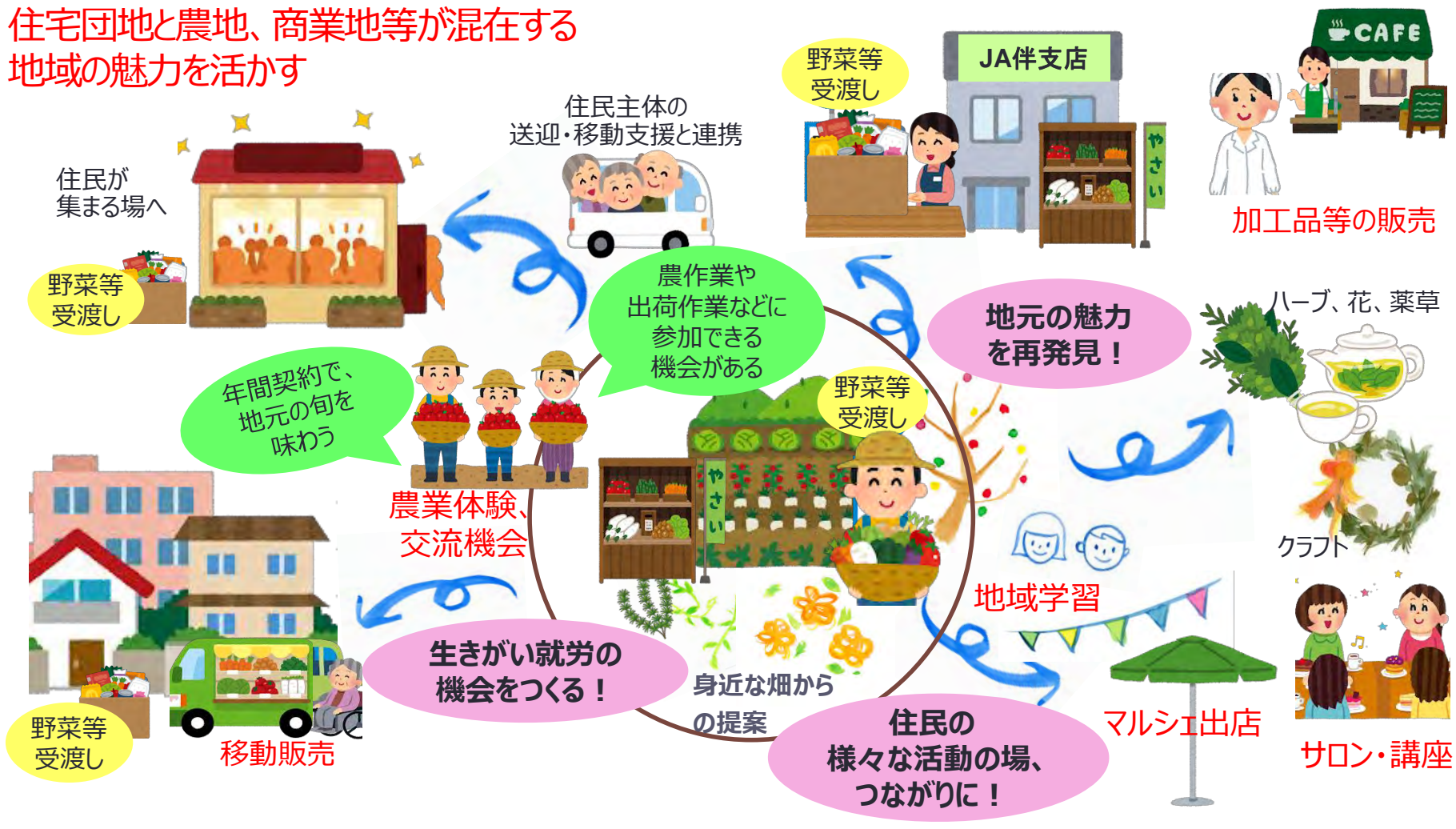
農業従事者だけでなく、伴・大塚の住民が、身近に農地がある良さを実感できる機会、農地を知る、関われる機会を。

「農」は
わがまちの
強み、魅力！

⇒ 「農のある暮らし」の提案へ

伴・大塚ならではの「農のある暮らし」 これからのイメージ

住宅団地と農地、商業地等が混在する 地域の魅力を活かす



⇒ ここに住んでよかった! 住み続けたい!
次の世代に、伴・大塚への愛着・誇りを「農」でつなげる

①菊芋栽培(令和2年度～)

・アグリアシストとも「CSA試験農場」で、栽培しています。

・収穫した菊芋はJA広島市伴支店でのイベントでアグリアシストの広報もかねて配布しました



②落花生栽培 特産品「沼田ピーナッツ」目指して(令和4年度～)

・農業委員会との意見交換で得た情報を基に落花生栽培に挑戦中(サルの被害あり?)

8. 持続可能な農業で想定される効果

1. 農業関連に従事されている方の困りごと解消
2. 農業振興・農業経営者の確保
 - ・消費者との交流が生まれ、地域の賑わいを創出
 - ・消費者から将来の農業担い手を発掘
3. 地域環境の保全確保
 - ・農地の保全や管理が行き届き、景観が保たれる

- ・地域の賑わい創出
- ・災害に強い（防災の）まちづくり
- ・まちの景観の維持

まちづくりの推進に寄与

9. 協同労働による役割分担



9. 協同労働による役割分担

1. 4つのグループの設立

①困りごと対応グループ

- ・ 農場関連のお困り事作業(機械修理等、クボタ、JAとの協力)

②CSA関連グループ

- ・ 野菜、落花生、菊芋ほかの野菜育成
- ・ 西本農場の借用

③広報グループ

- ・ チラシの作成
- ・ 視察者や講演、メディアへの対応

④新事業対策グループ

- ・ 仲間(担い手)の募集
- ・ 新規事業の開発対応
- ・ 農業振興

お困りごと支援を重点としつつ、農業振興やまちづくりを応援する体制を確立していく

最後に、想いを込めてまとめ

●「アグリアシストとも」は地域丸ごとをモットーに活動します。具体的には以下11団体と伴・大塚すべての30町内会が連携します。

伴学区町内会連合会、3学区社協（伴学区、伴東学区、大塚・伴南学区）、沼田公民館、大塚公民館、地域包括支援センター、介護や福祉施設職員、民生児童委員、日比野病院、NPO法人沼田まちづくり協議会、協同労働2団体（GO郷まつむね、すまいるワーク）、JA広島市伴支店

●「アグリアシストとも」は伴・大塚地区の農業の持続を目指し、【まちづくり・景観作り】に繋がります。
また、地域の皆様の想いを大切に『寄り添い型支援』を目標に地域の皆様から信頼を頂く努力を行います

●「アグリアシストとも」は他の地域では類を見ない独自活動で『オンリーワン』の団体を目指します

最後に、想いを込めてまとめ



『やっぱり“アグリ アシストとも” じゃのう』

と言われ、信頼される運営を行い、持続可能な地域社会の実現を目指します。

最近の状況



叡啓大学生さん2名がインターシップ（大学の体験プログラム）を利用して、お困りごと支援の体験をしていただきました。



ご清聴ありがとうございました。

農業関連の お困りごとは わしらに まかせんさい!

施設に入所や
通院しており、
家の周りや、
田畑のことが
気にかかる

高齢となり、
農地の管理が、
できなくなった

田畑のことを、
気軽に相談
したい



芝刈り
草刈り (農地やその周辺)
田おこし、代かき ※地域限定
畑の耕し
田畑の防草対策
木樹(果木)の植え付け
植木の手入れ及び処理
農機具の点検 等

おかげさまで、
活動を始めて
3年が経ちました!

【令和元~3年度作業実績】

228 件

【県内外からの視察 30 件】

国や県・市の議員、
JA など協同組合、自治体、
地域活動団体等

事前に現地や内容を確認してお見積りをします。
安心してお気軽にお問合せください。

わがまち農業応援団!

アグリ アシストとも

伴・大塚の農業を未来につなげることを目的とし、
農業関連のお困りごとを支援するために設立した
地域に愛着を持った活動団体です。

代 表：西本 正憲

住 所：安佐南区伴中央 7-16-47-4

問合せ：事務局 上垣内(うえこうち)・谷本・山内美穂

☎ 080-3888-5197

SGDs (持続可能な国際的開発目標) に沿った
地域のまちづくりを目指しています!

取組み目標 7 項目



伴・大塚の農業を 楽しく持続させる応援団

ととも アグリ アシストとも



① 農業従事者
困りごと
支援事業

私たちとともに楽しく地域を応援

② 農業持続
支援事業

地域のお困り
ごと解決！
3本柱
事業

③ 地域環境
整備事業

農のある暮らしの提案、
CSA(地域支援型農業)の実践と
農業新IT技術への挑戦

環境保全、防災、
まちの景観維持

農のある暮らし
を楽しもう！

仲間募集

一緒に楽しく活動しましょう！
お気軽にご相談ください！

新鮮な
野菜を
味わいたい

伴・大塚
が大好き！

女性も
男性も
歓迎！

有償ボランティア
に興味がある！

野菜づくり
を試みたい

私は、野菜づくり未経験でしたが、
分かりやすく教えていただき、
自分のペースで、野菜づくりを
楽しんでいます！収穫できた
野菜はと〜っても美味しいですよ！
(2児のママ)」

「JA 広島市伴支店」と提携し、地域住民に寄り添った
地域オンリーワンの活動をしています。

令和4年4月 国会議員・地方議員の視察→
(JA 広島市伴支店会議室)



【地域情報提供 協力諸団体】 (順不同)

伴・大塚地区コミュニティ推進協議会、伴学区町内会連合会、伴学区社会福祉協議会、伴東学区社会福祉協議会、
大塚・伴南学区社会福祉協議会、伴学区民生委員児童委員協議会、広島市戸山・伴・大塚地域包括支援センター、
特別養護老人ホーム 和楽荘、老健しんあい、日比野 病院、日本サポートアットホーム(株)、GO 郷・まつむね、すまいるワーク、
JA 広島市伴支店、NPO 法人沼田まちづくり協議会 ほか